

京都大学大学院教育学研究科
教育実践コラボレーション・センター主催



2018. 8.17(fri)・18(sat)
全国スクールリーダー育成研修

E.FORUM 2018



Q. 「E.FORUM」とは？



研究科長よりご挨拶

今年も恒例の夏の E.FORUM を行います。教育学研究、教育実践の進展にとって、領域を超えた対話や理論と実践が往還する場は両者をつなぐ核として重要な位置をもっています。E.FORUM は、2006 年の創設以来、本研究科のこうした理念の実現を担う場(しくみ)として大きな役割を果たして参りました。本年度も、ご参加頂きました皆様方が多くの学びを得られることを切に願っております。

稲垣 恭子(京都大学大学院教育学研究科長)

A.

広く教育に関心を持つ人々の

「広場」

です。

現在の日本においては、学校や地域の教育改革を推進するスクールリーダー(教育委員会指導主事、学校管理職・研究主任、地域の教育サークルのリーダーなど)の育成・力量向上が求められています。そこで、京都大学大学院教育学研究科では 2006 年度に E.FORUM を設立し、毎年「全国スクールリーダー育成研修」を提供しています。参加者間の交流の機会も積極的に設けることによって、教師のライフコース全体を見通した力量向上のネットワークを築くことをめざしています。

本年度も下記の日程で研修を実施いたします。是非ふるってご参加ください。

全国スクールリーダー育成研修

日 程： 2018 年 8 月 17 日(金)・18 日(土)

対 象： 全国からの希望者 100 名程度 (先着順)

京都大学吉田キャンパス

会 場： (1 日目)法経済学部本館 1 階 法経第四教室ほか
(2 日目)国際科学イノベーション棟 5 階 シンポジウムホールほか

(詳細は裏面の地図をご覧ください)

※1 日目または 2 日目のみの参加も受け付けています。

お申込み方法：

申込用紙(E.FORUM ホームページからダウンロード可能)にご記入の上、7 月 19 日(木)までに、メールまたは FAX で事務局までお送りください(ただし、定員になり次第締め切ります)。

※ 昨年度より参加費は銀行振込でのお支払いとなりました。現金でのお支払いは受け付けておりませんので、ご注意ください(懇親会費・お弁当代を除く)。

※ 懇親会に参加をご希望の方は、懇親会費(3,000 円)が必要です。また、お弁当(1 個 1,000 円)をご用意できます。なお、懇親会費とお弁当代は、当日受付にてお支払いください。

参加費

2 日間：9,720 円(税込)
1 日のみ：7,560 円(税込)

お支払い方法

銀行振込にて 7 月 31 日(火)までにお支払いください。振込先等の詳細については、お申込み受けの際に事務局からお送りするメールにてお知らせいたします。尚、ご入金後の返金はできません。何卒ご了承くださいませ。



E.FORUM

検索

お問い合わせ先： 京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 Fax: 075-753-3033
E-mail: e-forum@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
(申込用紙はホームページからもダウンロード出来ます。)
URL: <http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/>

運営担当：黒田真由美(教育実践コラボレーション・センター研究員)・田坂鞠子(京都大学大学院教育学研究科 E.FORUM 事務局)

プログラム

2018年8月17日(金)

会場：法経済学部本館1階 法経第四教室ほか

9:00 - 9:30 受付

9:30 - 9:45 オープニング

西岡 加名恵

10:00-12:30 分科会
A or B

分科会 A
「カリキュラム設計入門
——教科におけるパフォーマンス課題づくり」
【講師】西岡 加名恵

分科会 B1
「若い教師に伝えたい
授業づくりの発想」
【講師】石井 英真

12:30-14:00 昼休み(お弁当※1,000円)

14:00-15:30 分科会
A or B

分科会 A (午前の続き)
「カリキュラム設計入門
——教科におけるパフォーマンス課題づくり」
【講師】西岡 加名恵

分科会 B2
「カリキュラム・マネジメントとの
向き合い方」
【講師】服部 憲児

15:45-15:50 研究科長挨拶

15:50-17:30 講演
「ワーキングメモリを鍛えることができるのか？」

【講師】
齊藤 智

【司会】
服部 憲児

18:00-20:00 懇親会※ (会場:京大時計台前カフェレストラン「カンフォアラ」 参加費 3,000円)

2018年8月18日(土)

会場：国際科学イノベーション棟5階 シンポジウムホールほか

9:00 - 9:30 受付

9:30 - 9:45 オリエンテーション

9:45-11:50 シンポジウム
「カリキュラム・マネジメントをどう効果的に進めるか」

【パネリスト】
赤沢 早人
(奈良教育大学・教授)
盛永 俊弘
(京都大学大学院
教育学研究科・特任教授)
田中 容子
(京都大学大学院
教育学研究科・特任教授)

【司会】
西岡 加名恵
石井 英真

12:00-13:30 昼休み(お弁当※1,000円)

13:30-16:30 教科等別分科会
「各教科等における『見方・考え方』をどう育成するか
——パフォーマンス評価の活用」

【講師】
石井 英真 ほか

※お弁当・懇親会参加をご希望の方は、受講申し込みの際にお申し出の上、当日、受付にて代金をお支払い下さい。
キャンセルされる場合は7月31日(火)までにご連絡をお願い致します。



(中等教育学校教諭)
受講者自身が「アク
ティブ」になるプログ
ラムが多く、大変
充実しています。

(高等学校教諭)
動は本研修ならではの
熱気に包まれた活
動は本研修ならではの
ものです。

(小学校教諭)
現場の声と理論が
結ばれる中間地点
(経由地)になって
いるような気がし
ます。

(高等学校教諭)
授業レベルが教
材・教具の工夫とい
ったレベルを一步進
めた高次のレベルの
講義や演習がいい
と思う。現場の教
員は高次のレベルに
まで目を向けるこ
とが少ないが、実
践を分析していく
視点として、教育
理論や社会学研究
成果が必要だと思
う。

昨年度の受講者の声
(写真は昨年度の研修の様子です)



10:00-12:30/14:00-15:30

法経済学部本館 1階
法経第四教室

分科会 A 「カリキュラム設計入門
——教科におけるパフォーマンス課題づくり」

学習指導要領の 2017・2018 年改訂においては、「資質・能力のバランスのとれた学習評価」を行っていくために、パフォーマンス評価を取り入れることが推奨されました。本セッションでは、典型的なパフォーマンス評価の方法として教科で用いられるパフォーマンス課題の作り方を体験的に学んでいただきます。また、ルーブリック(評価指標)の作成方法やポートフォリオの活用方法についてもご説明します。

※ご希望の学年・教科の教科書、学習指導要領など、単元指導案づくりに役立つような資料をご持参ください。

【講師の主な著書】『教科と総合学習のカリキュラム設計』(単著、図書文化、2016 年)、『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価』(編著、明治図書、2016 年)。翻訳『理解をもたらすカリキュラム設計』(日本標準、2012 年)も刊行。



にしおか かなえ

西岡 加名恵 教授

専門は教育方法学(カリキュラム論・教育評価論)です。パフォーマンス評価の研究開発、学校におけるカリキュラム改善の進め方などに関心を持っています。本研修が、全国の先生方の有意義な交流の場ともなることを願っています。

10:00-12:30

法経済学部本館 1階 法経第七教室

分科会 B1 「若い教師に伝えたい授業づくりの発想」

都市部を中心に教師の世代交代が急速に進行しています。その中で、若手教師に授業づくりの基本的な技や考え方をどう傳承するかが課題となっています。本セッションでは、授業づくりの骨格となる思考のフレームを紹介するとともに、教材研究をどう進めるか、学習者のつまづきをどう読み解くかといった、授業づくりにおける基本的な考え方について、ワークショップ的な演習を通して学びます。また、「教科する(do a subject)」授業をキーワードに、授業づくりの今後の方向性についても説明します。

【講師の主な著書】『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影』(単著、日本標準、2015 年)、『増補版・現代アメリカにおける学力形成論の展開』(単著、東信堂、2015 年)、『中教審「答申」を読み解く』(単著、日本標準、2017 年)、『教師の資質・能力を高める! アクティブ・ラーニングを超えていく「研究する」教師へ』(編著、日本標準、2017 年)など。



いしい てるまさ

石井 英真 准教授

学力形成の理論と実践について研究しています。このような視点から算数・数学教育にも関心を持っています。本研修が、それぞれの学校のカリキュラム開発を支え励ますものになることを願っています。

14:00-15:30

法経済学部本館 1階 法経第七教室

分科会 B2
「カリキュラム・マネジメントとの向き合い方」

「カリキュラム・マネジメント」なるものが教育界を賑わせています。学習指導要領の理念を実現するためにこれが不可欠だとされています。教育課程を中核とする学校改善という発想は今に始まったことではありません。ただ、今時とりわけ求められているのは、社会に開かれた教育課程、教科横断的な視点、様々な教育資源の効果的な活用などです。つまり、より広い視野が教員に求められています。このような状況にどう対処すれば良いのか。これを質の高い学びにどう結びつけるか。そこにはどのような課題があるのか。本セッションでは、政策動向や関連事項について確認した上で、カリキュラム・マネジメントとどう向き合うかを、一緒に考えていきたいと思います。

※勤務校の学校教育目標がわかるもの(パンフレット類、学校通信類、HP など)を資料として持参してください。また、学校教育目標を達成するための取り組みなどについて、簡単に説明できるようにしておいていただけるとより良いです。

【講師の主な著書】『フランスCNEによる大学評価の研究』(単著、大阪大学出版会、2012 年)、『学生と楽しむ大学教育』(共著、ナカニシヤ出版、2013 年)、『教育行政提要(平成版)』(共編著、協同出版、2016 年)など。



はっとり けんじ

服部 憲児 准教授

教育制度・教育政策の研究をしています。今日、教育を取り巻く環境にはたいへん厳しいものがあります。その現実を直視しつつも、元気が出るような制度や政策を作っていく手がかりを模索しています。

15:50-17:30

法経済学部本館 1 階 法経第四教室

講演「ワーキングメモリを鍛えることができるのか？」

我々の日常生活には、必要な情報を一時的に覚えておきながら作業をすることを求められる活動が多くあります。そうした一時的な記憶の働きをワーキングメモリと呼びます。たとえば、文中に記された「彼」が指し示す人物を、すでに読み終えた文の内容を参照しながら理解するためには、ワーキングメモリの働きが必要になります。ワーキングメモリは学習活動にとって特に重要ですが、その働きには限界があることも知られています。我々には一度に多くのことを覚えておくことはできず、この限界が学習活動を制約しているのです。ワーキングメモリの機能を向上することは、そうした制約から派生する困難を低減し、この機能に支えられている多くの活動を容易にすると考えられ、このような期待が、多くのワーキングメモリのトレーニング研究を生み出してきました。この講演では、近年のこうした研究から明らかになった事実と問題点を紹介し、今後の検討課題を論じていきます。

【講師の主な著書】

『認知心理学ハンドブック』（共著、有斐閣ブックス、2013 年）、『錯覚の科学』（共著、放送大学教育振興会、2014 年）、『ワーキングメモリと教育』（共著、北大路書房、2014 年）、『英語教育学と認知心理学のクロスポイント』（共著、北大路書房、2016 年）、『新・教職教養シリーズ 2020 第8巻 教育心理学』（共著、協同出版、印刷中）。



さいとう さとる
齊藤 智 教授

京都大学大学院教育学研究科・教授。博士（教育学）

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。鳴門教育大学助手、大阪教育大学助手、助教授を経て、2002 年 4 月より現所属。

専門は認知心理学・記憶科学。記憶の機能とメカニズムに関する心理学的研究から人間を理解しようとしている。近年は、ワーキングメモリと心の制御過程の関係を中心に研究を進めている。日本ワーキングメモリ学会理事。

E.FORUM Online (EFO) のご紹介

E.FORUM では、会員の方が開発された様々な実践資料を継続的に蓄積・共有するため、「E.FORUM Online (EFO)」を開発しています。EFO に蓄積された各種のデータ(単元指導計画、パフォーマンス課題やループリックなど)は、会員が日常的に活用し、実践に役立てることができます。

「全国スクールリーダー育成研修」を受講された方は、EFO が利用できる「E.FORUM 会員」として自動的に登録されます(会費は無料、退会はいつでも可能です)。

単元指導計画、パフォーマンス課題、ループリック、ワークシート、児童・生徒の作品例など、各種データが掲載されています。

E.FORUM の研究成果のご紹介

E.FORUM ウェブサイト「研究成果のご紹介」のページにて、E.FORUM の研究成果(講義動画や関連資料など)をご覧ください。

<http://e-forum.educ.kyoto-u.ac.jp/seika/>

2018年8月18日(土)

9:45-11:50

国際科学イノベーション棟 5階 シンポジウムホール

シンポジウム

「カリキュラム・マネジメントをどう効果的に進めるか」

2017・2018年改訂学習指導要領においては、「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」(カリキュラム・マネジメント)が強調されています。しかし、カリキュラム・マネジメントは、具体的にはどのように進めれば良いのでしょうか。本シンポジウムでは、様々な学校等でカリキュラム・マネジメントを支援してきた研究者である赤沢早人教授、並びにそれぞれ中学校・高等学校の現場で実際にカリキュラム・マネジメントを推進してこられた盛永俊弘特任教授・田中容子特任教授のご経験を伺いつつ、議論を深めます。

【パネリスト】

● 「授業改善のための／としてのカリキュラム・マネジメント」

奈良教育大学 赤沢 早人 教授

授業改善や学校改善の支援を行っています。「カリキュラム・マネジメントの実現」と一口に言っても、学校の置かれた状況によって、まったく切り口が異なります。先生方の声をできるだけよく聞きながら、各学校にマッチした支援のあり方を模索しています。

【主な著書】『新しい教職教育講座 教職教育編6 教育課程・教育評価』(共著、ミネルヴァ書房、2018年)、『教職教養講座 第4巻 教育課程』(共著、協同出版、2017年)、『次代を創る「資質・能力」を育む学校づくり 第1巻 「社会に開かれた教育課程」と新しい学校づくり』(共著、ぎょうせい、2017年)など。

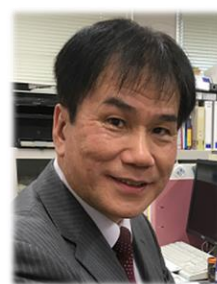


● 「学校課題を解決するマネジメント」

京都大学大学院教育学研究科 盛永 俊弘 特任教授

授業が変われば生徒、そして学校が変わります。授業づくりを根幹にした学校マネジメントを紹介します。(元京都府公立中学校校長。国立教育政策研究所情報統計官、京都府乙訓教育局人事主事・総括指導主事などを歴任。学校心理士・ガイダンスカウンセラー)

【主な著書】『子どもたちを“座標軸”にした学校づくり——授業を変えるカリキュラム・マネジメント』(単著、日本標準ブックレット、2017年)、『学力調査の結果を生かした取り組みと学校評価』『新教育課程下で進める学校評価の取り組み』(教育開発研究所、2010年、pp.32-33)、『学力——いま、そしてこれから』(共著、ミネルヴァ書房、2006年)など。



● 「すべての生徒に考える力を——生徒の姿から学ぶカリキュラムづくり」

京都大学大学院教育学研究科 田中 容子 特任教授

「すべての生徒に考える力を育てたい」という願いを一貫して持ち続けています。高校現場で同僚たちと取り組んだ多様な学力層の生徒たちとの授業実践を最新の知見を通して整理し、それらが学校教育の中でどのように生かされてきたのかをお話いたします。

【主な著書】『パフォーマンス評価で生徒の「資質・能力」を育てる』(共編著、学事出版、2017年)、『教職教養講座 第7巻 特別活動と生活指導』(共著、協同出版、2017年)、『アクティブラーニングの評価』(共著、東信堂、2016年)



【司会・コーディネーター】西岡 加名恵 教授・石井 英真 准教授



京都大学 OCW サイトのご紹介

「本質的な問い」、「永続的理解」、パフォーマンス課題といった用語について基礎から学びたい方には、8月17日(金)の分科会Aにご参加いただくか、または下記の京都大学OCWを予め視聴されることをお勧めします。



パフォーマンス評価について説明している授業の動画と関連資料を、次のウェブページでご覧いただけます。

- 京都大学 OCW→教育学部→「教育課程論 I」
(2014年度後期、担当:西岡加名恵)
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/14-9233001>
- 京都大学 OCW→教育学部→「教育課程論 II」
(2013年度後期、担当:西岡加名恵)
<http://ocw.kyoto-u.ac.jp/ja/03-faculty-of-education-jp/13-9234001>

13:30-16:30

教科等別分科会

「各教科等における『見方・考え方』をどう育成するか ——パフォーマンス評価の活用」

2017・2018年改訂学習指導要領においては、「主体的・対話的で深い学び」(いわゆるアクティブ・ラーニング)を通して、「資質・能力」を育成するという方針が打ち出されています。さらに、各教科において「深い学び」を実現するために、「各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方」(「見方・考え方」)を育むことが重視されています。

本研修では、パフォーマンス評価を用いることによって、どのように各教科等の「見方・考え方」を育むことができるのかについて、じっくりと検討します。

※パフォーマンス評価に関わる基本的な用語(「本質的な問い」、「永続的理解」、パフォーマンス課題)について基礎から学びたい方には、8月17日(金)の分科会Aにご参加いただくか、または左頁に紹介しているの京都大学OCWを予め視聴されることをお勧めします。

国語	 <p>八田 幸恵 大阪教育大学・准教授</p> <p>教師が教育の主体としてつくりだすカリキュラムのあり方を、読みという領域に緩やかに焦点化して研究してきました。本分科会では、新しい学習指導要領国語科編の特徴を読み解きつつ、これからの時代に求められる国語科の目標、評価、年間指導計画のあり方について学びます。</p> <p>【主な著書】『教室における読みのカリキュラム設計』(単著、日本標準、2015年)、『教育をよみとく——教育学的探究のすすめ』(共著、有斐閣、2017年)、『連続12回連載 学校と教室における読みのカリキュラム・デザイン——これからの時代に求められる国語科の目標と評価のあり方』『教育科学国語教育』808-819号(明治図書、2017年4月～2018年3月)</p>
社会／ 地理・ 公民	 <p>鋒山 泰弘 追手門学院大学・教授</p> <p>英米の中等教育の教科教育の目標論と学力評価の関係について、主に社会系教育を事例として日本と比較して研究しています。</p> <p>【主な著書】『現代教育の基礎理論』(共編著、ミネルヴァ書房、2018年)、『授業と評価をデザインする：社会』(共著、日本標準、2010年)。</p>  <p>次橋 秀樹 京都大学大学院教育学研究科・院生</p> <p>高大接続の観点から、日本の入試制度や国際バカロレアのプログラムについて研究しています。</p> <p>【主な著書】『教育課程・教育評価』(共著、ミネルヴァ書房、2018年)、『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価——アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』(共著、明治図書、2016年)</p> <p>本分科会では、新学習指導要領や大学入試改革を受けて社会系教科に求められている教育目標の質について検討し、その目標に対応する評価方法・評価基準について具体的な事例をもとに検討します。その際、諸外国や国際バカロレアの社会系教科の目標論・評価方法と比較して、そこから得られる示唆についても議論します。</p>
算数・ 数学	 <p>石井 英真 京都大学大学院教育学研究科・准教授</p> <p>日米のカリキュラム研究や授業研究の蓄積に学びながら、現場の先生方とともに、算数・数学等の授業づくりや学校改革にも取り組んでいます。本分科会では、新学習指導要領を受けて算数・数学教育にもとめられている学力・学習の質や授業・評価のあり方について学びます。</p> <p>【主な著書】『中教審「答申」を読み解く』(単著、日本標準、2017年)、『アクティブ・ラーニングを超えていく「研究する」教師へ』(編著、日本標準、2017年)</p>
理科	 <p>大貫 守 愛知県立大学・講師</p> <p>理科教育の教育方法(教育目標・教材・教具・教育評価等)および教育課程を専門としています。本分科会では、目の前の子どもたちがよりよい学びを実現する授業づくりや教育課程編成の在り方について、理科におけるパフォーマンス課題づくりのワークショップを行う中で一緒に考えてみましょう。</p> <p>【主な著書】『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価——アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』(共著、明治図書、2016年)、『教職教養講座(第4巻)教育課程』(共著、協同出版、2017年)など。</p>
英語	 <p>赤沢 真世 大阪成蹊大学・准教授</p> <p>専門は教育方法学、英語教育です。入門期の英語教育について関心を持ち、とくに最近では、小学校外国語教育について学校現場をまわり、先生方と授業づくり、授業改善を行っています。分科会では、小中高の英語教育のつながりや、Can-doリストやパフォーマンス評価のあり方について議論していきたいと思ひます。</p> <p>【主な著書】『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価——アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』(共著、明治図書、2016年)、『新しい教職教育講座 教科教育編 10巻 外国語教育』(共著、ミネルヴァ書房、2018年)など。</p>
実技・ 芸術系 教科、 職業 教育、 教員 研修	 <p>北原 琢也 京都大学大学院教育学研究科・特任教授</p> <p>教師教育における「理論の実践化」だけでなく、「実践の理論化」に関心をもっています。このような視点から教育課程論、カリキュラム開発論、教育評価論について研究しています。本分科会では、「見方・考え方」をどう捉え、どのように育成するか検討したいと思っています。</p> <p>【主な著書】『教職総合演習ワークブック』(共著、ミネルヴァ書房、2013年)、『技術・家庭科アクティブ・ラーニング——パフォーマンス課題を活用した授業&評価モデル』、『「資質・能力」を育てるパフォーマンス評価——アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』(共著、明治図書、2016年)など。</p>

会場案内

※京都大学ホームページ(<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access>)もご参照ください。



- JR・近鉄 京都駅より
 - ◆ 混み合うシーズンに一番早いルートは、地下鉄烏丸線で今出川駅まで行き、そこからバスかタクシーで移動する方法です。
 - ◆ 市バス 206 系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車。所要時間 約 40 分。
 - ◆ タクシー 所要時間 約 25 分。
- 地下鉄烏丸線 今出川駅より
 - ◆ 市バス 201 系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車。所要時間 約 15 分。
 - ◆ 市バス 203 系統「銀閣寺通・錦林車庫」行「百万遍」下車。所要時間 約 15 分。
 - ◆ タクシー 所要時間 約 10 分。
- 阪急 河原町駅(出口6番)より
 - ◆ 市バス 31 系統「東山通 高野・岩倉」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ◆ 市バス 201 系統「祇園・百万遍」行「京大正門前」下車。所要時間 約 25 分。
 - ◆ タクシー 所要時間 約 15 分。
- 京阪 出町柳駅(出口4番)より
 - ◆ 市バス 201 系統「祇園・みぶ」行「京大正門前」下車。所要時間 約 5 分。
 - ◆ タクシー 所要時間 約 5 分。
 - ◆ 徒歩 所要時間 約 10 分。

※ 宿泊については、各自で手配していただきますようお願いいたします。